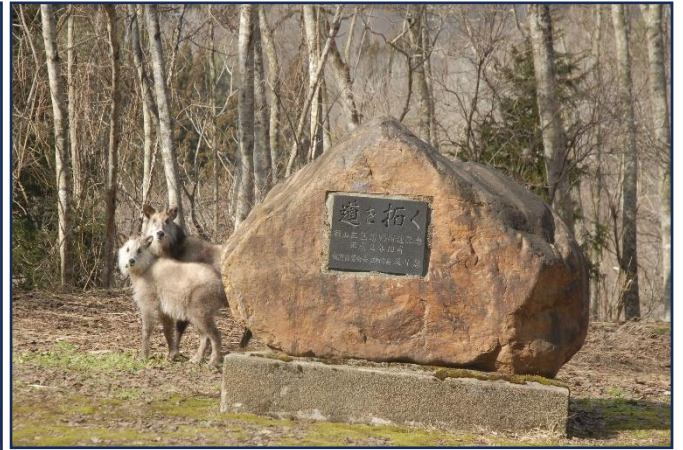


種山ヶ原は今③⑨ **種山ヶ原に春が来た！**

3月4日種山ヶ原に春が来た！及常建設の除雪隊の活動が始まり、いよいよ種山ヶ原が動き出します。でも、冬の間も物見山に登る人達が多くなります。通称堀切の所は雪の壁になり、八幡平に行かなくても雪壁を経験できます。

星座の森のスタッフも10日から活動開始。管理棟の裏口にも雪がいっぱいでスタッフも汗だくで頑張っていました。頑張れ、星座の森！





国道側の「道を拓く」の石碑にカモシカ親子



下の写真のように一面が野芝でした。県営の牧野も規模を縮小していき、周囲には木が伸び、賢治の森は松林の中に。当然物見山も見えない状態になりました。15年程前切り拓こうと仲間たちで立ち上がりましたが、松くい虫の関係もあり伐採は12月になりました。当日は種山ヶ原でもあり吹雪く中での松の伐採になりました。今考えるとよくぞやったなと思います。彼らが頑張ったからこそ今の賢治の森がある。ただただ頭が下がる。

昭和46年9月山形県の「野の詩人真壁仁」が訪れた時の賢治の森。石碑の後ろが立石奥に物見山が見えている
同行者は、佐伯公郎さんと松淵章さんです。

当時は草地でした。
昔人は「昔は全部野芝だったから、裸足で歩けたんだ。」と
馬は野芝で生きていけるが、牛は口の構造が違うので野芝だけでは無理。牧草が必要なのだと。



「オシドリ物語」 鴛鴦

一昨年5月21日の出来事でした。

草刈りに行く途中、道路下の田んぼを見ると、畦道に2羽の鳥が休んでいました。きれいな鳥だな～。よく見るとオシドリでした。去年から気になっていた鳥でした。

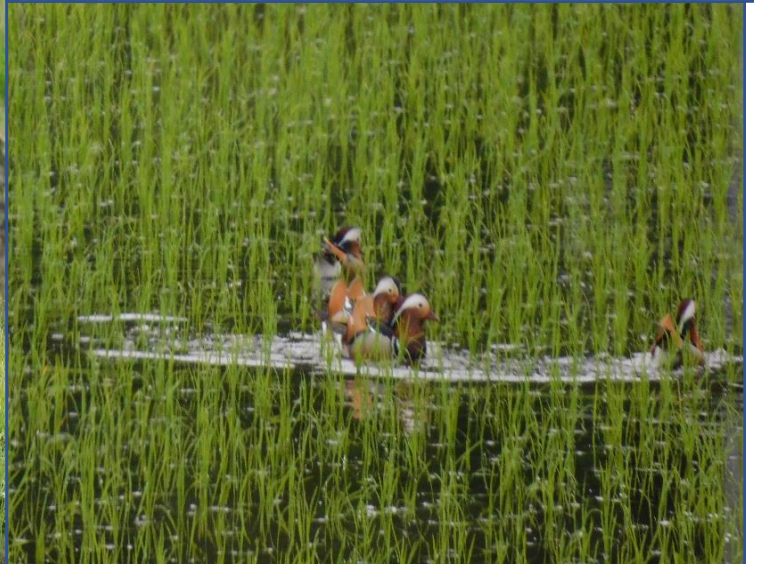
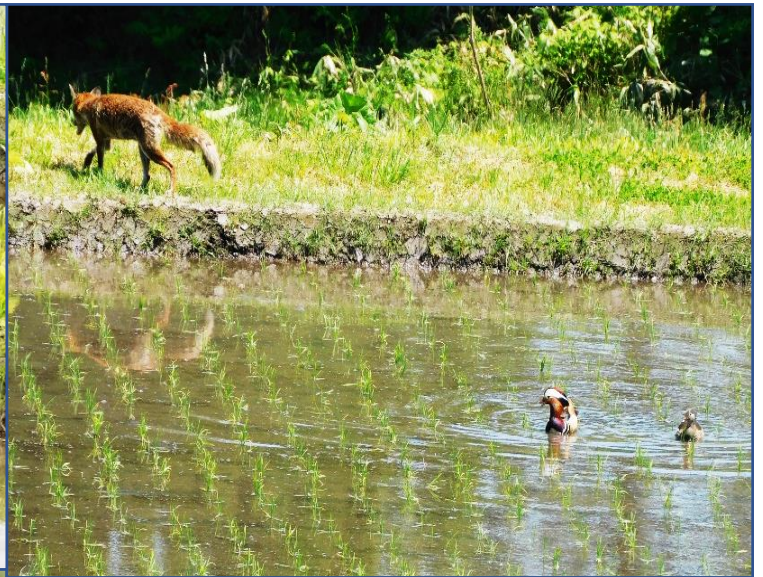
2時間ほどして、また、あの田んぼを見るとオシドリの近くに何か隠れています。キツネでした。オシドリを狙っていたのです。

キツネが襲いかかろうとすると、オシドリの雄は気がついて、一瞬雌を連れて田んぼの中へ逃げました。そのすばやいこと。

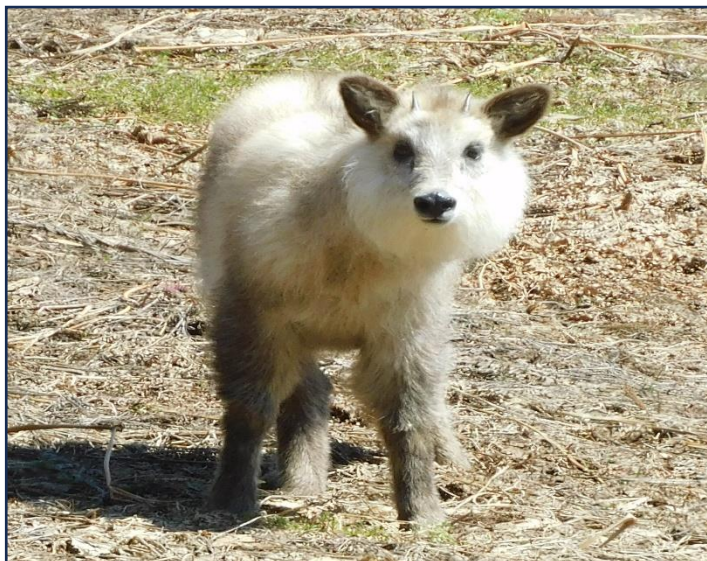
キツネは田んぼの中へは入れず、うらめしそうにオシドリを見ていましたが、すぐすと帰って行きました。めでたし、めでたし！

やがて2羽は畔にあがり「気をつけようね」とキツネを見送っていました。

今年の6月のこと、中郡の田んぼを見ると、オシドリが6羽田んぼであそんでいました。子供ができ、オシドリ一家が田んぼで楽しそうに遊んでいました。



カモシカの子供です。右は人首城の忠魂碑の前です。勉強しているんでしょうか？
とてもかわいい天然記念物です。でも彼らには畑も自分のお庭です。美味しく育った
野菜が彼らのお食事。畑の持ち主の人達をがっかりさせる害獣でもあるんです。



城跡にある忠魂社の自称「守り主」です。

賢治の森にある「東屋の番人」のカモシカの賢ちゃんです。去年から見えなくなりました。どうやら
熊や鹿のワナカケのハンターが東屋の近くにかけているワナの点検に毎日来るからだ判明。

